平成20年第4回京丹波町議会定例会（第4号）

平成20年12月19日（金）

開議 午前 9時00分

1 議事日程

- 第 1 会議録署名議員の指名
- 第 2 諸般の報告
- 第 3 同意第 8号 公平委員会委員の選任について
- 第 4 同意第 7号 固定資産評価審査委員会委員の選任について
- 第 5 諮問第 3号 人権擁護委員候補者の推薦について
- 第 6 諮問第 4号 人権擁護委員候補者の推薦について
- 第 7 諮問第 5号 人権擁護委員候補者の推薦について
- 第 8 諮問第 6号 人権擁護委員候補者の推薦について
- 第 9 議案第79号 京丹波町病院事業条例の制定について
- 第10 議案第80号 京丹波町職員の自己啓発等休業に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 第11 議案第81号 京丹波町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について
- 第12 議案第82号 京丹波町国民健康保険診療所及び歯科診療所の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 第13 議案第83号 平成20年度京丹波町一般会計補正予算（第2号）
- 第14 議案第84号 平成20年度京丹波町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）
- 第15 議案第85号 平成20年度京丹波町老人保健特別会計補正予算（第1号）
- 第16 議案第86号 平成20年度京丹波町介護保険事業特別会計補正予算（第2号）
- 第17 議案第87号 平成20年度京丹波町水道事業特別会計補正予算（第3号）
- 第18 議案第88号 平成20年度京丹波町営バス運行事業特別会計補正予算（第2号）
- 第19 発委第12号 議員定数等検討特別委員会設置の決議

2 議会に付議した案件

議事日程のとおり

3 出席委員（15名）

2番	坂本	美智代	君
3番	山内	武夫	君
4番	畠中	勉	君
5番	今西	孝司	君
6番	東	まさ子	君
7番	小田	耕治	君
8番	横山	勲	君
9番	西山	和樹	君
10番	山田	均	君
11番	室田	隆一郎	君
12番	篠塚	信太郎	君
13番	吉田	忍	君
14番	野口	久之	君
15番	野間	和幸	君
16番	岡本	勇	君

4 欠席議員（1名）

1番	藤田	正夫	君

5 説明のため、地方自治法第121条の規定により出席を求めた者（20名）

町長	松原	茂樹	君
副町長	上田	正	君
教育長	寺井	行雄	君
会計管理者	藤田	義幸	君
参事	田端	耕喜	君
瑞穂支所長	久木	寿一	君
和知支所長	藤田	真	君
監理課長	山田	洋之	君
総務課長	谷	俊明	君

企画情報課長	岩崎弘一君
税務課長	岩田恵一君
住民課長	伴田邦雄君
保健福祉課長	堂本光浩君
子育て支援課長	山田由美子君
地域医療課長	下伊豆かおり君
産業振興課長	山田進君
土木建築課長	松村康弘君
水道課長	中尾達也君
教育次長	野間広和君
監査委員	人見亮君

6 出席事務局職員（2名）

議会事務局長	長澤誠
書記	石田武史

開議 午前9時00分

○議長（岡本 勇君） 皆さん、おはようございます。

連日の各委員会、ご苦労さまでございました。

ただいまの出席議員は15名であります。

定足数に達しておりますので、平成20年第4回京丹波町議会定例会を再開いたします。

直ちに、本日の会議を開きます。

《日程第1、会議録署名議員の指名》

○議長（岡本 勇君） 日程第1、会議録署名議員の指名をいたします。

会議録署名議員は、会議規則第119条の規定により、3番議員・山内武夫君、4番議員・畠中 勉君を指名いたします。

《日程第2、諸般の報告》

○議長（岡本 勇君） 日程第2、諸般の報告を行います。

本会期中において、各常任委員会、特別委員会が開催され、付託請願の審査、提出議案の審査、調査が行われました。

12月8日に採択しました農林水産試験研究機関のあり方（案）に関する意見書を、12月9日、京都府に本書を持参いたしまして、小石原副知事をお願いをしてきたところでございます。あわせて、京都府議会議長に対しましても、府にこの意見書を提出したことも申し上げ、協力、ご理解をお願いをしてきたところでございます。

本日、町長から1件の追加提出議案があります。

本会議終了後、議員全員協議会を開催いたしますので、議員の皆さん、よろしく願いいたします。

以上で、諸般の報告を終わります。

《日程第3、行政報告》

○議長（岡本 勇君） 日程第3、行政報告を行います。

松原町長。

○町長（松原茂樹君） 皆さん、おはようございます。

今期定例会も、本日で最終日となりましたが、開会以来、議員各位には連日熱心にご審議いただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

さて、2点ばかり、報告事項を申し上げます。

まず、京都府の農林水産試験研究機関のあり方（案）に示された林業試験場の今後につきましては、林業振興の研究を担ってきた拠点施設として強く存続を願い、議会におかれましても、定例会初日に意見書を可決され、翌日には早速京都府に持参いただくなど、林業試験場の存続と研究体制の強化を強く訴えていただいたところであります。

京都府では、あり方（案）のパブリックコメントを行うなど、さまざまな意見を踏まえながら、このほど、これからの京都府農林水産試験研究について（案）として取りまとめがなされました。

これによれば、亀岡市に統括する農林水産技術センターが設置され、さらにこれを構成する組織として農林、畜産、海洋、生物資源研究の四つのセンターが置かれ、森林分野の研究は森林部森林技術センターとして農林センターの拠点である亀岡市において実施されますが、研究施設等の面から亀岡において施設整備が整うまでの間、既存施設を活用して木材利用等の推進に係る研究を京丹波町で実施することとし、名称を木材利用推進センターとすることが明らかにされました。実施期間は、平成21年4月となっております。細部が明らかではありませんが、当面は既存施設が有効に活用されるとともに、試験研究の成果が広く林業振興に活かされる推進体制となりますことを期待するものであります。

もう1点は、過日、広報京丹波おしらせ版で、年末年始の公共施設などの業務の取り扱いについてお知らせをしておりますが、本年は12月27日が土曜日となりますことから、年末業務は2日早い26日をもって終了となります。これにあわせ、町営バスの運行についても27日から運休としておりましたが、余りに運休期間が長く、年末の買い物などに支障を来すことから、29日と30日に臨時運行を全路線にわたり行うことにいたしました。町民の皆様には、改めて有線放送やケーブルテレビを通じ、お知らせをすることといたしております。ご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以上、行政報告といたします。

○議長（岡本 勇君） 行政報告を終わります。

《日程第4、同意第8号 公平委員会委員の選任について》

○議長（岡本 勇君） 日程第4、同意第8号 公平委員会委員の選任についてを議題といたします。

町長の提案理由の説明を求めます。

松原町長。

○町長（松原茂樹君） それでは、早速でございますが、本日追加提案させていただきます議案につきまして、その概要を説明させていただきます。

同意第8号 公平委員会委員の選任についてであります。北村優委員の任期が、この12月25日に満了となります。北村氏は、今回の任期満了を区切りとして、退任のご意思がかたく、これを尊重させていただきました。

後任の委員には、京丹波町高岡にお住まいの山本和之氏を選任することについて、お願いしております。山本氏は、丹波町職員として長い行政経験とともに、昨年12月にご退任されるまで、丹波町、そして引き続き京丹波町の教育長として、教育行政の推進、発展にご尽力いただいております。人格、識見ともに高く、広く社会の実情にも精通され、加えて温厚、誠実な人柄から、多くの人々の信頼も厚く、職務を適切に務めていただけるものと存じております。

以上、簡単でございますが、同意案件の提案説明とさせていただきます。ご同意賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（岡本 勇君） 補足説明を担当課長に求めます。

谷総務課長。

○総務課長（谷 俊明君） それでは、同意第8号 公平委員会委員の選任について、補足説明を申し上げます。

この公平委員会でございますが、これにつきましては、地方公務員法の規定によりまして、設置をいたすものでございます。

主な職務でございますけれども、職員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する措置の要求を審査していただく、あるいはそれに基づいての判定及び必要な措置をとっていただくという事になっております。

もう一つは、職員に対する不利益な処分についての不服申し立てに対する採決または決定をしていただくこと。こういったことが主な職務でございます。任期は4年となっております。

それでは、議案を朗読させていただきます。補足説明にかえさせていただきます。

同意第8号 公平委員会委員の選任について。

下記の者を、京丹波町公平委員会の委員に選任したいから、地方公務員法（昭和22年法律第261号）第9条の2第2項の規定により、議会の同意を求める。

記

住 所 京都府船井郡京丹波町高岡檜原20番地

氏 名 山本和之（昭和22年3月30日生まれ）

平成20年12月19日提出

京丹波町長 松原茂樹

なお、山本氏の主な職歴、公的職歴等につきましては、裏面のとおりでございます。

以上、簡単ではございますが、補足説明とさせていただきます。よろしくお願いを申し上げます。

○議長（岡本 勇君） 以上、説明のとおりであります。

これより質疑を行います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） これをもって、質疑を終結いたします。

討論を省略します。

これより、同意第8号を採決いたします。

この表決は、起立により行います。

同意第8号 公平委員会委員の選任について、原案のとおり決することに賛成の方は、起立願います。

（全員 起立）

○議長（岡本 勇君） 起立全員であります。

よって、同意第8号は、原案のとおり同意されました。

《日程第5、同意第7号 固定資産評価審査委員会委員の選任について》

○議長（岡本 勇君） 日程第5、同意第7号 固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

これより質疑を行います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） これをもって、質疑を終結いたします。

討論を省略します。

これより、同意第7号を採決いたします。

この表決は、起立により行います。

同意第7号 固定資産評価審査委員会委員の選任について、原案のとおり決することに賛成の方は起立を願います。

（全員 起立）

○議長（岡本 勇君） 起立全員であります。

よって、同意第7号は、原案のとおり同意されました。

《日程第6、諮問第3号 人権擁護委員候補者の推薦について》

○議長（岡本 勇君） 日程第6、諮問第3号 人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

これより質疑を行います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） これをもって、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

諮問第3号 人権擁護委員候補者の推薦について、原案の推薦者を適任とし答申することにご異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） ご異議なしと認めます。

よって、諮問第3号は、原案の推薦者を適任とし答申することとします。

《日程第7、諮問第4号 人権擁護委員候補者の推薦について》

○議長（岡本 勇君） 日程第7、諮問第4号 人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

これより質疑を行います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） これをもって、質疑を終結します。

お諮りします。

諮問第4号 人権擁護委員候補者の推薦について、原案の推薦者を適任とし答申することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） ご異議なしと認めます。

よって、諮問第4号は、原案の推薦者を適任とし答申することといたします。

《日程第8、諮問第5号 人権擁護委員候補者の推薦について》

○議長（岡本 勇君） 日程第8、諮問第5号 人権擁護委員候補者の推薦についてを議題と

いたします。

これより質疑を行います。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(岡本 勇君) これをもって、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

諮問第5号 人権擁護委員候補者の推薦について、原案の推薦者を適任とし答申とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(岡本 勇君) ご異議なしと認めます。

よって、諮問第5号は、原案の推薦者を適任とし答申することといたします。

《日程第9、諮問第6号 人権擁護委員候補者の推薦について》

○議長(岡本 勇君) 日程第9、諮問第6号 人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

これより質疑を行います。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(岡本 勇君) これをもって、質疑を終結します。

お諮りいたします。

諮問第6号 人権擁護委員候補者の推薦について、原案の推薦者を適任とし答申することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(岡本 勇君) ご異議なしと認めます。

よって、諮問第6号は、原案の推薦者を適任とし答申することといたします。

《日程第10、議案第79号 京丹波町病院事業条例の制定について》

○議長(岡本 勇君) 日程第10、議案第79号 京丹波町病院事業条例の制定についてを議題といたします。

これより、質疑を行います。

10番、山田君。

○10番(山田 均君) 担当課にお尋ねをしたいと思うんですけども、今回提案になっております瑞穂病院を京丹波町病院ということで、条例制定ということになっておるんですが、

これまでありますこの条例そのものを改正してというようなことは、無理というか、そういう方策というのか、やり方ではだめなのかどうか。これまで、二つの条例が企業会計の関係と、あったものを一つにしたわけですが、その点について一つ伺っておきたいということ。

それから今回、診療科目を、皮膚科と肛門外科というのを追加するという事になつておりますが、現在も診療をされておるということを聞いてるんですが、具体的に追加をする理由と診療日数ですね、体制というものはどのようになるのかということをお尋ねしておきたいと思っております。

それから、附則の部分で、第4項で、ここに京丹波町のバス運行事業の条例の一部改正ということで、瑞穂病院前を京丹波町病院前に変えるということであるんですが、この京丹波町の町営バス運行条例というのものもあるんですが、この本則の改正は必要ないのかどうか、あわせて伺ってみたいと思っております。

○議長（岡本 勇君） 下伊豆地域医療課長。

○地域医療課長（下伊豆かおり君） ただいま山田議員さんからお尋ねがございました、まず1点目の従来どおりの改正ではだめなのかという件でございますが、提案説明の際にも申し上げましたけれども、病院事業として、病院事業の分と、公の施設の設置また国民健康保険法に基づくという点をあわせ持つ病院事業条例でございます関係から、従来、二つで制定しておりましたけれども、それを一つの条例で定めることが望ましいという観点で、改正を考えさせていただきました。その結果、今回の、手法としてはどちらかの条例を全部改正という形も考えられるわけですが、新たに条例を設けるという形で整理をさせていただいたところでございます。

それから、診療科目の追加に関しましては、現在の診療日数の継続でございます。皮膚科につきましては月2回、第2、第4水曜日、肛門外科につきましては第3月曜日の予約診察ということで継続させていただく予定としております。

また、附則でバス運行条例の方の改正をいたしました分につきましては、名称名のみの変更ということで、もう一つの病院等の使用料条例の病院、質美診療所の名称も含めまして、附則での改正という手法をとらせていただいております。

○議長（岡本 勇君） 10番、山田君。

○10番（山田 均君） 最後のバス条例の運行条例の関係で、今、こういう手法という事がありました。こういうことによって、現在あります町営バス運行事業条例というのは、改正しなくてもいいと、この病院事業条例の中で変更することによって、このバス運行事業条例

の中にあります病院前の名前がこの附則によって変更できると、そういうことになるということなのかちょっとお尋ねしたいと思います。

それから、もう1点お尋ねしたいんですが、今回、条例の経営の基本というのがありまして、第2条ですね。病院事業は常に機能の経済性を発揮するとともに、公共の福祉を増進するよう運営されなければならないということになっておりまして、企業会計という性格上、こういう文面もあろうと思うんですが、この町営の病院という、そういう立場から言えば、公共の福祉を増進するというのを基本に据えて、企業の経済性を発揮するという、先に公共の福祉というのを持ってくるのが、いわゆる公立病院としての任務というんですか、目的がそれが一番でないかと思うんですが、その辺のちょっと見解と考え方だけ伺いたいと思います。

○町長（岡本 勇君） 下伊豆地域医療課長。

○地域医療課長（下伊豆かおり君）

附則でバスの条例を改正することに関しましては、この条例の施行に伴いましてバス運行条例の方も改正ができるということでございます。

それから、経営の基本に関しましてですけれども、もちろん、町立で設置しております病院、診療所は公共の福祉や住民の健康増進等を大きな役割といたしておりますし、あわせて、国保、国民健康保険法に基づく病院、診療所であることから、これらの医療施設の役割というのは、健康づくりや介護、福祉等の連携も、当然その役割として支えられておると考えております。条例の文面につきましては、今までからありましたものをそのまま継承しておりますし、そちらの関係で、企業会計と言いますか、経営を先に置くか、公共の福祉を先に置くかという部分につきましては、今までの条例をそのまま引き継いでおるという形でご理解いただきたいと思います。

○町長（岡本 勇君） 8番、横山君。

○8番（横山 勲君） いくつかの点について私からもお尋ねしておきたいと思います。

少し見方を変えて、私は財政の観点からお尋ねしたいと思うんですが、瑞穂病院の19年度の決算を少し見てみますと、19年度で5,391万余りの純損失を単年度で計上され、前年度の欠損繰越金を含みますと実に9,567万円余りの欠損が生じておるところでございます。あわせて、一般会計からも多額の繰り入れがされておる病院経営の実態でございます。

そういう形の中で、今回、機能の充実をすとして、従来の診療科目に皮膚科と肛門科の2科の診療科目の追加がされると提案がされておるわけでございます。当然、追加をされる

となりますと、それだけまた支出もふえてくると、こういうふうには、あれば収入もふえるのかもわからないと感じるところでございますが、追加される診療科目での収支の関係はどうか、まず最初にお尋ねをしておきたいと思っております。

○議長（岡本 勇君） 下伊豆地域医療課長。

○地域医療課長（下伊豆かおり君） 追加いたします皮膚科及び肛門外科のそれぞれの診療科におきます収支につきましては、肛門外科につきましては常勤医師が対応しておりますので、費用がふえるということは予定しておりません。

それから、皮膚科につきましては、現在、非常勤の医師をお願いしておりますけれども、現在のところ、月平均30人余りの外来患者数を見込んでおりますので、収支的には、皮膚科に限りますと、採算ベースであると考えております。

○議長（岡本 勇君） 8番、横山君。

○8番（横山 勲君） 2点目にお尋ねをしたいというふうに思うんですが、今回提案をされております内容には、町民の皆さんから信頼され、親しまれる病院を目指して、瑞穂病院の変更を行い、本町の中核病院として機能を充実すると提案がされております。

全国の自治体の公立病院の経営も少し調べておりますと大変な状況であるようでございまして、近くには大阪の松原病院が来年の3月末をもって閉院をされるという状況であるようでございます。本町の瑞穂病院も先ほど述べましたように、大変な収支の状況でございます。

そうした感じの中で、総務省の公立病院のガイドラインの提言でも、経営の効率化だとか、再編のネットワーク化だとか、経営形態の見直しなどを上げておまして、またさきの本町の地域医療審議会の答申にも、こうした施設を売却も含めて民間への経営移譲をも検討をすべきとこんなふうに答申をされたところでございます。そうした形の中で、本町の瑞穂病院も、窓口業務を主体として事務処理業務をことしの1月より委託をするなどの実施がされてまいっております。町長の一連の質問に対する回答の中で、病院の経営の改善に向けてあらゆる選択肢を検討していくというふうに述べられておりました。その都度、質疑の中であたかも将来に明るい展望が見出せない以上は、売却も含めて民間への経営移譲の選択肢もあり得ると解釈ができますような答弁がされておりますが、町長のそうした選択肢による病院経営のあり方と、今回の本町の名実ともに京丹波町病院の中核病院として位置づけをされた提案の事案に対するお考え方についてお尋ねをいたします。

○議長（岡本 勇君） 松原町長。

○町長（松原茂樹君） 今回、名称変更をお願いをしておるわけでございますが、やっぱり今日まで3年間見てきたわけですが、どうしても地域の病院というところがなかなか町

民の皆さんの意識の中から抜け切れない部分があるんじゃないかというふうに感じてまいりました。これまで、今もお触れをいただきましたように、審議会の答申を受けまして、さまざま事務のアウトソーシングでありますとか、病床の転換でございますとかを進めさせていただきました。

そうした中で、一定の経営改善もできておるわけですが、何と申しましても医師を初めとするスタッフの確保、そして全町民がこの病院をしっかりとご利用いただいて健康保持につなげていただくという意味では、経営の中身をしっかりと立て直していくということも大事でございますけれども、やっぱりそれにつながっていくという観点から言いますと、地域性のイメージが高い名称から、やはり本町の中核な病院という位置づけ、こうしたものを広めていくためには、今回提案させていただいております国保京丹波病院という形の中で、まずは国保京丹波町病院で一定の診察を受ける、そして健康保持に努めていただけるということが非常に大事ではないかというふうに思っておりますし、そうした中でさらに経営についての改善につきましては、緩めることなく、今後も精力的に取り組んでまいりたいという思いでございますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○議長（岡本 勇君） 8番、横山君。

○8番（横山 勲君） ただいまご答弁をいただいたわけですが、今回の病院については、そうした京丹波町病院として、町民の皆さん方の信頼と申しますか、愛着心と申しますか、郷土心と申しますか、そうしたものをということで名称変更するというふうに承ったわけですが、要はお聞きしたいのは、経営改善の中で、将来にわたり、展望の持てると申しますか、そうしたことに対する経営改善を今後続けていただく、そして選択肢の中には民間への経営移譲もあり得る、そんなふうな理解をさせていただいたらいいのかそのことについてもお聞きしておきたいと思っております。

○議長（岡本 勇君） 松原町長。

○町長（松原茂樹君） これは、やっぱり、いかに地域医療機関として存続をさせていけるか、それがやっぱり町民の一人一人の安心感につながるということであろうというふうに思っておりますし、まずはそのことを突き進めていきたい、追い求めていきたいという思いでございます。

しかし一方では、今、委員ご指摘のように、経営のこともあるわけですが、不採算という部門は免れないところがあるわけですが、しかし、その額が年々ふえていく、それをどう町として考えていくかということになりますと、やはりこれにも限界は出てくるというふうに思います。

そうした面で今、進めておりますさまざまなできる限りの経営改善をまずはしていくという中で、ドクター、もちろん全スタッフが気持ちを一つにして、まずは地域医療機関として国保京丹波町病院を守るという高い意識の中で、経営についてもこれは町が最後は何とかするということではなしに、現場においても一人一人がしっかりした思いで経営にも十分関心を持っていただきながら進んでいただけることが第一であろうというふうに思っています。

私の今の思いとしては、最終段階の、今、委員ご指摘のような部分を、現在選択肢として考えているということではありませんけれども、まずやっぱり、最大の経営安定に向けて、まずは努力をするというところに全精力を傾けたいというふうに考えておるところでございます。

○議長（岡本 勇君） 6番、東君。

○6番（東まさ子君） ちょっと今の質問と答弁を聞いておましてお聞きするものでありますが、9, 567万円のあるということでありましてけれども、内部留保というのはどのぐらいになっているのか、お聞きをしておきたいと思えます。

○議長（岡本 勇君） 下伊豆地域医療課長。

○地域医療課長（下伊豆かおり君） 申しわけございませんが、今、手持ちの資料がございません。

○議長（岡本 勇君） 10番、山田君。

○10番（山田 均君） 松原町長に伺っておきたいと思えますけれども、今、こういう努力をしていただいておりますということなんですが、これまでの歴史やとか、病院の新しい役割やとか、実際、今、国のそういう医療制度の中で、500床以上のベッドがなかったら、なかなかできないというようなことで、現実問題としているわけですがけれども、そういう中で、どのようにこの病院運営をしていくかということも大きな課題ですし、特にこの企業会計というのを病院事業はやっておるわけでございまして、今もいろいろご指摘があるように、そういうものは数字としてはっきり出てきている。実際に町がやっておるいろんな事業、そういうものをひとつひとつ見るともっともっと大きな部分も、課題をかかえている部分もあると思うんですけれども、全体の中でやっておるんで、それは表に出ないと。病院はそのあたり、出ておるんで、いろいろ議論されるわけですがけれども、しかし交付税そのものの算入というのは、やっぱり9, 700万、計算上あるということになってるわけですから、やっぱりそういうものを一つの原資としながら支援をしていくということなんですが、今後のその取り組みのあり方として、公立病院でございますので、どうかという問題もあるんですが、例えば民間でしたら、患者を中心に友の会というのをつくって、病院とのかかわりを強めた

り、いろんな、独自に友の会が患者のバスを走らすとか、いろんな取り組みをやっとるところもあるわけです。

だからやっぱりそういうような今、この病院を京丹波町病院として町の中核に据えるんだということでございますので、やっぱり町民の人がそういう病院と親しく、親しいというのはおかしいですけれども、病院を活用して自分たちの病院だという意識を持つていくためには、例えばそういうような友の会のようなものを組織するとか、そういういろんなあらゆる方法を考えて、町民挙げて、やっぱり医療の拠点、保健の拠点、福祉の拠点だというような、やっぱりそういう役割を果たしていけるようにやれば、もっともっとその方向も見えるんじゃないかというふうに思うんで、そういう方策も、やっぱり全国的ないろんな経験や事業を学びながら、ぜひ取り組んでいこうやないかと考えるべきじゃないかと思うんで、その辺のちょっと考え方、お伺いしておきたいと思います。

○議長（岡本 勇君） 松原町長。

○町長（松原茂樹君） 私どもの町として、こうして病院、診療所を持っているということは、非常に町民の皆さん方にとっては、私は大事なものとしてご認識をいただいているというふうに思うんですけれども、一方で、やっぱりこのことが町の財政を非常に圧迫してくるというのものもあるわけですし、先ほどから申し上げておりますように、あれば安心だけではなかなか存続をしていくことができないというふうに思います。非常にそうした面では、周辺に総合病院等もあるわけでございますし、患者さんそれぞれの思い等もある中で、町の病院あるいは診療所をどうとらえていくかという部分では、やっぱりそこにはそれぞれが負担をして成り立っているということも、やっぱり町民の皆さん方にも考えていただいて、ご利用をいただくことで存続が可能になってくるというふうに思っておるわけでございますので、今、ご提案ありましたように、患者さん方で一定のそうした思いを共有しながらというような組織づくりも、逆にお願いをしたいという思いはあるわけでございます。いずれにいたしましても、先ほどから申し上げておりますように、これはみんなで支えている町立の病院であるという意識をまず広めていただきたいという思いで、さまざまな内部の経営改革はもちろんでございますけれども、町民の皆さん方にも、これは我々の病院であるという、そしてまたみんなでしっかり活用していかないと将来存続も危ぶまれるという部分についても、ぜひこういう機会を通じて理解を深めていただきたいというふうに思っておるところでございます。

○議長（岡本 勇君） これをもって、質疑を終結いたします。

これより、討論を行います。

討論はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(岡本 勇君) 討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより、議案第79号を採決いたします。

議案第79号 京丹波町病院事業条例の制定について、原案のとおり決することに賛成の方は挙手を願います。

(全員 挙手)

○議長(岡本 勇君) 挙手全員であります。

よって、議案第79号は、原案のとおり可決されました。

《日程第11、議案第80号 京丹波町職員の自己啓発等休業に関する条例の一部を改正する条例の制定について》

○議長(岡本 勇君) 日程第11、議案第80号 京丹波町職員の自己啓発等休業に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

これより、質疑を行います。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(岡本 勇君) これをもって、質疑を終結いたします。

討論を省略します。

これより、議案第80号を採決いたします。

議案第80号 京丹波町職員の自己啓発等休業に関する条例の一部を改正する条例の制定について、原案のとおり決することに賛成の方は、挙手を願います。

(全員 挙手)

○議長(岡本 勇君) 挙手全員であります。

よって、議案第80号は、原案のとおり可決されました。

《日程第12、議案第81号 京丹波町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について》

○議長(岡本 勇君) 日程第12、議案第81号 京丹波町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

これより、質疑を行います。

2番、坂本君。

○2番(坂本美智代君) 福祉厚生委員会でもちょっとお聞きいたしましたが、今回、医療

事故に伴いまして、保険を掛けるということですが、それが民間で1社ということになっておりますが、その点は問題がないのかお聞きいたします。1社ということ、まあ言うたら、ほかの保険会社はなくて民間ということなんで、その点の関係で問題は生じないのか、お伺いします。

○議長（岡本 勇君） 伴田住民課長。

○住民課長（伴田邦雄君） 現在1社であるということですが、今後はふえるかもしれません。

以上でございます。

○議長（岡本 勇君） 10番、山田君。

○10番（山田 均君） 今、提案になっております3万円という上限としてというふうなんですけど、本来、これほど少子化の中で、またお産の問題が非常に事故の問題含めてなっている中で、やっぱり公的な制度でしっかり支援していくというのが一番基本だと思うんです。今回、今もありましたように、民間がそういう保険をつくって、そこに医療、病院とかそういうお産を担当する病院等が加入するという制度で、そこへ保険料を負担するというふうになっているようです。本来、そういう面から言うと、保険というのは選べる制度であって普通やと思うんですけれども、もちろんそれは国の段階でできてきたものを市町村が受けているという事かもしれませんが、やっぱりある程度担当している部署としての考え方としては、やっぱりどういふようにいわれるお産に対する事故等に対する制度として導入しようとする訳でございますから、今の見込みとしたり、また見通しとして、いろいろ当然、担当課としては情報も集めておられるというふうだと思うので、今後のその見通しとしては、どういふようにそういう情報としてはとっておられるんですかということ、その辺もう少し、他人まかせというんじゃなしに、やっぱり担当課としてどういふようにしっかりそれを情報としてつかんでおられるのか伺っておきます。

○議長（岡本 勇君） 伴田住民課長。

○住民課長（伴田邦雄君） ちょっとどのように答えたらいいのか、わかりにくいんですが、今後の見通しということではいいんですかね。

これは、おっしゃいましたように、国の制度としてでき上がったということで、民間保険の手法は使っておりますが、目的といたしましては、医療事故、原因の特定がなかなかできない脳性まひに対する出産のリスクでありますとか、訴訟のリスクを抑えて、安心してお産ができるということと、また産科医不足の解消につなげていくということが趣旨でございます。保険のあり方につきましては、いろいろとご指摘はあろうかと思いますが、趣旨としま

しては適切ではないかと、このように考えております。

今後の見通しということでございますが、これは制度のどういう見通しをお尋ねなのか、ちょっとわかりませんが、出産育児一時金につきましては、少子化対策の一端を担っておるということでございまして、現在におきましても、来年の10月から42万円に引き上げるというふうな案も出ているようにも伺っておりますので、そうした面で、少子化対策の一環としても有効な手だてではないかなとこのように考えております。

○議長（岡本 勇君） 10番、山田君。

○10番（山田 均君） 私が申し上げたのは、こういった事故に対しては、やっぱり公的な制度でちゃんと確立するのが基本ではないか。今の制度としては、そういう民間が保険の制度を1社がつくっているというそうですが、そういう意味は、基本の事を聞いたのですが、この制度は出発しているわけやから、保険会社が。結局、保険会社がそういうことをやろうとって、儲かったら他の保険会社もこういう制度を作るかもしれませんが、現在のところは1社ということなんですけれども。安心というと同時に、民間ですので、もうからなきゃ経営やらないわけですので、その辺のことは、本当に医療事故ということは本当にあってはならんこととございまして、あったときにはその補償というのは非常に大事やと、こういう意味で、本来の保険という、いわゆる制度の考え方からすれば、お産として絞られてるわけですので、本来はそういう公的なものできっちりやれるような制度が、本来はできるべきじゃないかという意味でお尋ねしたんで、別に答弁を求めるといのはありませんけれども、そこら辺がやっぱり崩れていくとまた保険会社が支払うとか支払わないという問題が起こってくるという事もおきますので、お産を安心してできるというのが基本でございまして、そういう意味で申し上げたので意見を申し上げておきます。

○議長（岡本 勇君） これをもって、質疑を終結いたします。

これより、討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） 討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより、議案第81号を採決いたします。

議案第81号 京丹波町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について、原案のとおり決することに賛成の方は挙手を願います。

（全員 挙手）

○議長（岡本 勇君） 挙手全員であります。

よって、議案第81号は、原案のとおり可決されました。

《日程第13、議案第82号 京丹波町国民健康保険診療所及び歯科診療所の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について》

○議長（岡本 勇君） 日程第13、議案第82号 京丹波町国民健康保険診療所及び歯科診療所の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。
これより、質疑を行います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） これをもって、質疑を終結いたします。
討論を省略します。

これより、議案第82号を採決いたします。

議案第82号 京丹波町国民健康保険診療所及び歯科診療所の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、原案のとおり決することに賛成の方は挙手を願います。

（全員 挙手）

○議長（岡本 勇君） 挙手全員であります。

よって、議案第82号は、原案のとおり可決されました。

《日程第14、議案第83号 平成20年度京丹波町一般会計補正予算（第2号）》

○議長（岡本 勇君） 日程第14、議案第83号 平成20年度京丹波町一般会計補正予算（第2号）を議題といたします。

これより、質疑を行います。

○議長（岡本 勇君） 10番、山田君。

○10番（山田 均君） 1点お尋ねしておきたいのは、歳出26ページの消防施設費の関係の、今回新たに提案になっております住宅用火災警報機購入事業にかかわってお尋ねしておきたいと思うんですが、これまで説明や考え方が一定示されてきているんですが、消防署等からも全戸に対して住宅用の火災警報機を設置しましょうというようなチラシも配付されてきておまして、それは平成18年6月1日以降に新築する住宅はつける義務になる。既存の住宅については、23年6月1日から義務になりますよということですが、設置場所は寝室、階段、台所ということで、特に3カ所が言われておるわけでございますけれども、これは全戸に2個ずつ、10分の10という方式で支給というかそういうふうにするわけですか

れども、これを一つの実施団体といいますか、区長会にお願いしたいということをお願いしているわけですが、入札ということになったら、入札の主体がいわゆる区長会ということになるわけなんですけれども、町の肩がわりとして区長会がやるということなんですけれども、そういう入札実施をすれば、区長会がそういう法的に任意の団体ですのでどうなのかというのが一つお尋ねしておきたいなと。

それから、こういう景気が非常に悪化している中で、地元の業者を優先して、業者を通じて購入するというのが非常に大事だと思うんですけれども、そういう場合に、町内のそういう業者ですね。希望する業者がそこに参加をすると。導入の機種なども検討して、一括で専門のそういう製造しておるところから購入して、区長会を通じて町民に配布するというそういう方式というのは、町内の業者がそれぞれその購入にかかわれるようなそういうような取り組みというかやり方はできないのか。

またあわせて、当然、2個ですので、この際、もうちょっと家につけたいという方もあろうかと思うんですけれども、そういうのを同時に購入ができるといいますか、そういうこともあわせてできないものなのか、その辺の考え方をひとつ伺っておきたいというように思います。

○議長（岡本 勇君） 谷総務課長。

○総務課長（谷 俊明君） ただいまのお尋ねの件でございますが、まず1点目の入札の考え方でございますけれども、区長会が任意団体なのでどうかということでございますが、町が事業主体で入札をするということではなく、町の肩がわりとして区長会にさせていただくということでもございません。あくまでも区長会の主体で、例えば町の入札に準じた形で行っていただく、あるいはまた見積もり合わせといいますか、そういう形で業者を決定していただくということもあろうかと思っております。その点については、今後、私ども町がお願いする中で、区長会として一番最善の方法であるということを確認して決定いただいてから行っていただくことになろうかというふうに思っております。

それから、それにかかわっての町内の業者の方、確かに電気店経営等たくさんあるわけですが、一つは、私どもの考え方としては、まずはこの警報器を設置していただくということは、あくまでもそれぞれの住民の方の生命と財産を守るという大きな大前提の事業であるということと、それからもう一つは、一括で入札といいますか、見積もり入札といいますか、そういう形をやっていただいて、多くを一括購入するということになりますと、1個1個の単価、これもやはり低く購入することが大量購入のメリットが発生するのではないかと考えておるところでございますが、それをうまくそれぞれの業者さんに振り

分けると言いますか、そういうことができるものであるかどうかについても、これもまた区長会としての検討をしていただかなんところではないかと思っております。

それから、2個を超えて、3個、4個という場合はどうかということですが、私どもの助成としては2個を限度ということにいたしておりますので、もしこの事業が各区で取り組んでいただいたときに、うちの区は1戸当たり3個にしようかということになれば、その1個分についてはそれぞれの区の負担ということになりますか、個人が負担されるか、どちらかの判断になるかと思えます。私どもの事業として申請いただくのが2個を限度というふうに考えておりますので、その辺は各区にお任せをせざるを得ない。2個を超える部分についてはそのような考え方になるかと思えます。

○議長（岡本 勇君） 10番、山田君。

○10番（山田 均君） 2個以上の分について、希望があった場合の一緒に取りまとめができるのかどうかということでお尋ねしたので、区長会が主体になれば、区長会がということになるのかもしれませんが。

業者の関係なんですが、例えばこの火災警報機を購入するための町内の関係の業者が集まって、例えばそういう協議会みたいなをつくるとか、1回だけですので、なかなかどういう形であるかというのは、受け皿としてそういう町内の業者がまとまって、そしてそこが一括で発注して、そうやってそれぞれの業者が分担をして、それぞれの区との関係で納めていくという一つの方法をとれば、メリットが少ないかもしれませんが、これ3,500万という大きなお金からすれば、こういう時期でございますので、業者の少しでも激励になるんじゃないかというように、そういう面では思えますので、ぜひそういうような考え方で取り組むべきじゃないかというように思うのが一つです。

それからこの説明のときに、町内の1割の町民が付けているのではないか。既にということがあったんですが、先ほど申し上げましたように平成18年6月1日以降の新築住宅には義務づけになってるわけですけれども、住宅が何軒あるのかというのをつかんでおられるんじゃないかと思うんですけれども、義務化以前についてはすべて対象にすると。私とこは要らんというところは別ですけれども、そういう形で考えても、いわゆる1割分はついておるとい判断なのか。いやそうすれば、もう少し対象として広がるかもしれないということなのか、ちょっとその辺はどういう把握をされてるのかということと、この義務化以前のものについては、やっぱり全戸を対象にしようという基本的な考え方であろうと思うんですけれども、その辺ちょっと、伺っておきたいと思えます。

○議長（岡本 勇君） 谷総務課長。

○総務課長（谷 俊明君） 町内の業者さんにつきましては、議員さんがおっしゃられたご意見も踏まえて、また区長会ともいろいろ協議をさせていただかないといけません、今はお答えしかねますので、ご理解を賜りたいと思います。

それから、どういうことで1割程度が付いているかということですが、これは消防署に私どもの方も伺いをいたしまして、一定の推計の想定設置率というのが、きちり言いますと、大体12.7%余りではないかというふうに消防署の方から伺っておるところでございます。今申されましたように、実際に1軒1軒個々に当たったということではございませんので、18年以降の新築についても現実についているかどうかということまでは、ちょっと確認もいたしかねているところでございます。

ただ、今回、この警報器の設置についての対象は、すべての家屋ということで、既に個人でつけておられる家庭もあろうかと思えますけれども、そういったところも新たに2個は限度として助成をしたいというふうに考えております。

○議長（岡本 勇君） 2番、坂本君。

○2番（坂本美智代君） 私もこの火災警報機のことでお伺いしたいんですけども、今回、1個当たり3,000円という金額が出されておりますが、一括するとなつての3,000円やと思うんですけども、どのぐらいの機種のものが3,000円となるのか、電気屋さんにもちょっと行かせてもろても、いろんな金額がありまして、機能もいろいろ多種でありますので、大体どのぐらいのものを購入されたら3,000円になるのか、また機能もどういったものを思っておられるのか、その辺がわかりましたらお願いします。

○議長（岡本 勇君） 谷総務課長。

○総務課長（谷 俊明君） 私どももこの予算を計上させていただくときに、業者さんに参考見積もりをとらせていただきました。その基本といたしましたのは、あくまでも警報機の仕様です。それが一つはそれぞれ壁あるいは天井に設置可能なものとして、日本消防検定協会というところがあるそうですが、これの鑑定の合格品であるということと、感知方式は煙式または熱式、それから電池の寿命が10年ということ。それから警報の方法が音声、ブザーまたは光による警報というように、一定の仕様を定めて参考見積もりをとらせていただきたい。私どもは今、単価を3,000円ということで、これも大量購入で3,000円ということで、100個、200個という単位ではなくて、一応1万個の場合ということでとらせていただいたということでございます。もとの定価が3,500円でございますので、それが3,000円程度の参考見積もりが出たということでございます。

○議長（岡本 勇君） 7番、小田君。

○7番（小田耕治君） 私も住宅火災警報器購入事業についてお尋ねするんですけども、今までの説明によりますと、事業主体が区ということで、対象が住民、京丹波町に住民登録のある方、あるいは外国人登録のある世帯が対象ということでございますけれども、区が事業主体ということで、住民票は京丹波町にないが、住居がある。当然、固定資産を払ったり、区入りをしている方、土日はこちらの京丹波町に帰ってこられる方とか、そういう方がおられるわけですけども、そういう方に対してのいわゆる火災警報器の配布についても考えるべきではないかなというふうに思うんですけども、あくまでも対象はこの住民登録がある方、あるいは外国人登録がある方ということで限定をされるのかどうか。この点についてお伺いしたいというふうに思います。

○議長（岡本 勇君） 谷総務課長。

○総務課長（谷 俊明君） 今現在考えておりますのは、基本的に住民登録あるいは外国人登録がある方の世帯を対象にということでございます。

住居の本拠といいますか、それがどちらにあるかということになるわけでございますけれども、基本的に住民票をこの京丹波町以外に住居を構えて、住民票を置いておられるということにつきましては、そちらの地方自治体の行政サービスを本来的には享受されておることであろうと思っておりますので、週末にはこちらの方へお帰りになられて、地域活動も同様にされてるといふ例は確かにあろうかとは思いますが、一定のそういった線を引かせていただかなければならないのではないかというふうに思っております。

○議長（岡本 勇君） 6番、東君。

○6番（東まさ子君） 私は16ページの市町村共同開発システム運用負担金ということで、常任委員会でもお聞きしていたわけでありましたが、町長はその12月15日にこの共同開発システムの設立準備会の立ち上げにということで行く予定であるというふうに、委員会でも報告をされていたわけでありましたが、今までも言っていることでもありますけれども、それと国保なんかはというふうに、国保税なんかでもこの対象にされるのかどうか。もし、対象となる場合でありましたら、これまで資格証明書とかいろんな滞納の問題でいろいろと答弁をお聞きする中で、本当に困難なところには生活保護のそういう対処の仕方も相談の中でやっていくんだというふうな答弁もありましたけれども、こういうふうにこっちの方へ移行してしまうと、そういうきめ細かな相談活動ができていくのかどうか、大変問題があるのではないかと。あるいはまた、滞納なんかの場合でしたら、いろんなものを重複して滞納されている場合があるんですが、それをどちらを優先に入れていくかと、徴収、どこを優先に、順番に入れていくかというふうなこともありますし、納税者の意思がなかなか反映されにくくな

るのではないかというふうな大きな問題があると思うんですが、こういうことについてはどのようにしているのか。

それから、ページ17ページで、経済センサス調査ということで予算化がされておって、あるいはまた商工費なんかのところでも補正がされているわけでありましたが、いろいろな金融危機の発端から、いろんな失業された方とか、業者の方も大変経営的にもいろんな問題が起きているところではないかと思うんですが、町としてこういうところへの実態調査というのはされていて、誘致企業なんかもあるわけでありましたが、そういう企業がどういうふうになっているとか、そういう実態をつかんでおられるのかどうか。

それからもう一つ、ページ21ページであります。清掃費で、塵芥処理費ということで、16万上がっているわけでありまして、例えばその私たちの生ごみの収集なんかをお世話になっているわけでありまして、私、竹野でありますので、月曜日に収集日が当たっているわけでありまして、祝日があつて、振替休日みたいなことで、月曜日の収集がないときがあるんですね。夏なんかでありますと、大変においもしたりということで、休日も振り替えのそういう休日があつた日も、収集をしてもらえへんかというような声もお聞きしているんですが、町長は衛生管理組合の会長でもありますので、そういう、何ていうか、要望というのは聞いておられないのか、それについてはどういうふうにご考えておられるか、お聞きしたいと思います。

○議長（岡本 勇君） 岩田税務課長。

○税務課長（岩田恵一君） 16ページの関係でのお尋ねの件ですけれども、12月15日、委員会当日でしたけれども、町長が準備委員会に行きまして、基本的な事項を確認いただいたということでございます。また国保税の扱いの関係ですけれど、まだ担当レベルでの統一的なものが決まっておられませんけれど、将来的な組織は、広域連合での扱いになるのかというのは、今、作業部会等でも検討をさせていただいているところでございまして、また府下市町村によりまして、それぞれの市町村で国保税として扱うところと、国保税として扱うところ、またその担当部署も税務課、また住民課等ございまして、一元化されていないということもございまして、これを新たな組織で扱うということには、今のところはなっておりません。

また、国保税とそのほかの固定なり住民税なりの重複者ですね、これはどちらに優先して徴収するのかということなんですけれども、税に上下はございませんので、どちらをとるかというか残っている分を徴収していくということに基本的にはなるんですけれども、我々としましてはやっぱり議員ご指摘のように、資格書等そういった面もございまして、できる

限り国保税を優先して徴収しているというのが今の状況でございます。

○議長（岡本 勇君） 岩崎企画情報課長。

○企画情報課長（岩崎弘一君） 17ページの関係の指定統計、経済センサスでの関連のご質問でございますけれども、今回、補正予算を上げさせていただいております部分につきましては、国が指定する統計調査ということでの部分でございます、全国ベースで見た中での統計ということで、国が諸施策に資するためということで行っている部分でございます。

したがいまして、後段のご質問の部分になるわけでございますけれども、町内での経済の状況であります部分については、現時点ではそういった調査といったものは行っておりません。なお、そういうふうに現時点で非常にとりざたもされておりますので、産業振興の観点、商業振興の観点等々あると思いますので、現課とも相談する中で、必要であればそういう部分についても検討を加えていきたいというふうに思っております。

○議長（岡本 勇君） 松原町長。

○町長（松原茂樹君） 生ごみの関係でございますが、特に本町でこういうふうなお話が出ているということはないわけでございますが、現行週2日ということで収集させていただいておりますけれども、一部、いわゆる本町もそうですけれども、月曜日に収集日が当たっているということで、振替休日等になる場合が年に9回から6回というぐらいの中でそういうことになっておるという中で、次の収集日まで置かざるを得ないという中で、悪臭でありますとか、置く場所にも限度があるとか、さまざまなことがございまして、衛生管理組合としても、どういう手法をしていくかということで、いろいろ協議を重ねてきたわけでございますが、なかなか、カンポリサイクルプラザの搬入については、祝祭日等についてはだめということになっておりまして、一たん保管をして、平日に持ち込まなければならんということになってまいりますと、非常に費用もかさむという部分もございまして、これは利用者負担につながるということもありますので、翌日収集ということで、21年度から南丹市の一部、それから京丹波町全域につきましては、そうした月曜日が休みになった場合、翌日の火曜日に収集をするという方向で今、検討を進めさせていただいております。

○議長（岡本 勇君） 6番、東君。

○6番（東まさ子君） 今、税務課長が、国保税については広域連合を作られるのかわかりませんが、そこでということですが、基本的には町の何ていうか、意向によって、その国保税もこの共同化の中に入れて徴収してもらおうかどうかというのは、町が態度というか、意向を示してそういうことになるというふうに、この準備会というか、この話し合いの中ではそういうふうになっているのではありませんか。

それと、町長にお聞きしますけれども、企画課長が今、答弁されましたけれども、必要であればということでしたが、緊急の場合もありますし、来年度の予算編成のときでもありますし、今はこうした住民の声を聞いて、その予算に反映するというのも、大変大切でそういう時期なのではないかと思っておりますので、そういう町職員の皆さんそれぞれがなるか、その方法はどうか分かりませんが、各課でという住民の意向を調査するというのはどうですか。

○議長（岡本 勇君） 岩田税務課長。

○税務課長（岩田恵一君） おっしゃるとおりでございますが、本町といたしましては、広域連合での扱いを望んでいるところでございますけれども、先ほど申し上げましたように、税とか料とかまちまちでございますし、またその辺の見解の相違もございますので、今は広域連合のほうで国保についても扱うということには至っておりません。あくまでも国保税、料については検討を加えていくということにとどまっているところでございます。

○議長（岡本 勇君） 産業振興課長。

○産業振興課長（山田 進君） 現下、非常に経済も厳しいということで、京都府につきましては、緊急経済雇用対策本部の設置ということで、これが12月の11日に、知事を本部長といたしまして設置をされました。本日、京都府の緊急経済雇用対策連絡会議が開かれるということでございます。

それを受けまして、各振興局管内で地域本部を設置いたしまして、当然その中には関係機関入るわけでございますが、そうした中で、広域的な対策をとるということになっております。

いろいろ産建の方でも窓口とか本部の設置を町単独でということもありましたけれども、なかなか広域なことですし、国家的なこともございますので、町が単独で構えてということにつきましても、なかなか難しいし、知識的なこともございますので、こういうものが近々に設置されますので、そういう組織の中で対応していきたいというふうに思っております。

そしてまた、非正規社員の問題も非常に大きな問題になっておりまして、それにつきましても、一定、調査をしております。京丹波町に創業をされる大手5社から聞き取りをいたしましたところ、派遣社員につきましましてはゼロでございました。パート職員につきましましては339人ということでございます。契約社員につきましても85人ということで、全体で424名の聞き取りでございました。ただ、経営の内容とか、そういう部分につきましましては、なかなかご質問しても内容的にもしゃべっていただくことができませんので、内容的にはそういうことは確認をしませんでしたが、そういう従業員体制であるということは確認されまし

た。

そういうことで、近々には中小、小規模事業の資金繰りの支援のための緊急保証制度が始まりましたよということで、パンフレットを配布いたしまして、これはセーフティネット保証第5号の拡充ということで、不況業種が全体業種の4分の3に拡大されまして、その認定をすることによって、「あんしん借換融資」というものも受けられるということでございまして、現在、何人かの方が申し込みに来られております。

実態を商工会に聞きますと、中小企業様の経営のいわゆる相談につきましては余りないということも聞いております。そういうこともございまして、年末年始にかけまして、そういう対応を積極的にとっていきたいと思いますので、ご了承を賜りたいと思います。

以上でございます。

○議長（岡本 勇君） 8番、横山君。

○8番（横山 勲君） 私も何点か質問をしていきたいと思いますが、ページ7、8、9の地方債の補正の件について、少しお尋ねをしておきたいと思うわけでございますが、その中のいわゆる利率のことでございます。利率を4%以内ということで、これは長く平成17年ごろから私の知る限りでは4%というふうな設定がされてきておるんじゃないかというふうに感じておるわけでございますが、最初にそういうことの中でお尋ねをさせていただきたいのは、これも毎週日曜日ですか、新聞には今の金利がということで、金利の情報が常に出ておるわけでございますが、そうしたことの中で、現在の金利そのものを幾らぐらいというふうには財政当局で理解をされておるのかということ、まず1点お尋ねをいたしたいというふうに思います。

これとあわせて、現在いろいろこうして起債の目的別に限度額等も示されておるわけでございます。あるいは現在まで多くの起債を発行しておるわけですが、その辺の金利の現在の実態といたしますか、4%以内ということでございますが、どんなふうな推移をしておるか、こんなふうなことについて、少しお尋ねをさせていただきたいというふうに思います。

今申し上げますように、私の思いでは、この利率を4%以内としておるんですが、少し実体経済の数字の利率から見ますと、少し乖離をしておるんじゃないかなと、こんな思いで実はおるところでございまして、以上、その辺の状況について、まず1点お尋ねをしたいというふうに思います。

それからもう1点、41ページでございまして、地方債の残高調書が記載をされておるわけですが、私もこれ不勉強なのでそんな質問をするのかもわからんですが、実はその地方債、ずっと19年度末の現在高見込み額ということで、あえてここで見込み額が出てるわけ

です。19年度については、既にもう確定をいたしておりまして、私を知る限りでは、少しこの金額とは1億5,200万円ぐらい違うんじゃないかというふうに思うんですが、調書でございますから、何か難しい条例か政令かよくわからんのですが、そこでこういうふうにご書きなさいということがあるのかもわからんのですが、確定しておる以上、私は確定しておる金額、165億6,688万円という金額だったと思うんですが、そうした金額を掲載すべきじゃなからうかと、こんなふうを感じるわけでございますが、以上、お尋ねをいたします。

○議長（岡本 勇君） 谷総務課長。

○総務課長（谷 俊明君） 利率の関係でございますが、これも相手さんによって利率が変わっておるところでございますが、最も高いのは縁故、いわゆる市中銀行等でございますが、現状としては、大体1.9から1.6の間ぐらいで推移をしておるというふうに理解をいたしております。

公的資金関係でいきますと、もう少し下がりますと1.0。あるいは京都府の振興資金では0.65というような利率もあるわけでございます。

地方債の第2表のところでは、確かにおっしゃるように、利率は4.0%以内ということにいたしておりますので、その以内に収まっておるという理解をいたしております。

それから、一番裏の調書の関係でございますが、確かに見込み額という表現が適切かどうかということでございます。これもちょっと地方財政状況調査という調査とどうリンクさせるかということもございまして、いわゆる繰越事業にかかります一部の借入れ、これは起債前借りというふうな形で借入れをするわけでございますが、その分につきましては、当該年度の歳入でということ、借入れをいたした形になりますが、最終的に事業が完了して、繰り越した事業も含めて、本借りというふうにして借入れを行います。

そのときに、どちらの年度に位置づけるかということがございますので、ちょっと私、今、うろ覚えな形の答弁でまことに申しわけございませんが、そういったことも含めてこういう見込み額という表現にさせていただいているんじゃないかというふうに思っております

何分よいかげんな事になってもだめですので、十分この調書の考え方については、もう一度整理をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

○議長（岡本 勇君） 8番、横山君。

○8番（横山 勲君） 先ほどから利率のことについてお答えをいただいたわけですが、ご案内のように、いずれにいたしましても、2%以内であるだろうというふうに思います。

いわゆる利率、予定利率でありますと、半額になる利率で借りられておることが実態だろうというふうに、私も想像をいたしておったところでございますが、ところで、そのことを考えますときに、実に19年度末で我が町の借入金には瑞穂病院だとか、あるいは土地開発公社だとか、いろいろ一切合財を含めると、396億余りあるわけです。そうしたことを見ますときに、これらについての金利が金利を生んでいるという一つの大きな構造がそこにはあるだろうというふうに思います。

また、今、平成21年度の予算編成に向けて、取り組みが既に始まっている時期だというふうに思います。私は、金利に対する厳しい言い方をするわけですが、本当に財政当局にも、そうしたような厳しさはないのではなかろうか。4%以内というそうした安易さといいますか、気楽さといいますか、これは言葉が悪いので、取消なら取消もいたしますが、住民感情から見ると、そうしたことを言われるのではなかろうかとこんな思いもするわけでございます。ぜひひとつ、平成21年度の予算編成に向けて、厳しさをさらに認識をいただいて、一般企業並みとは言いはいたしません、実態を実勢金利にある程度即した取り組みを、21年度では期待をいたしておきます。

それから、今、ご回答いただきました41ページの現在見込み額の話です。恐らくこれは、統計調査上の数字との乖離だろうとこれは私も想定するわけでございますが、ぜひひとつ調書として出ておりますように、実は私も、これ以外にもたくさんいろいろ、財政指標や、いろんな数字をちょっと、19年度末を調べたわけですが、その調べましたときに、いろんな実は数字が出てまいりまして、本当はどの数字が正しいんやろということで、私自身も迷っておる部分たくさんありました。一つの調査の中に、あるいは一つの調書の中にいろんな数字が出てこないように、できる限り一つに統一をしていただく。そんなようなこともお願いを申し上げておきます。

○議長（岡本 勇君） 谷総務課長。

○総務課長（谷 俊明君） 財政当局でございますが、財政の厳しさは十分承知をしておるつもりでございますので、よろしく申し上げます。

利率の関係でございますが、基本的に現実の数字にきちっと合わすべきではないかということでございますが、一定幅を持たせておいた中で借入れ利率をそれは金融機関と交渉の上、決定するというふうな手続をとっておりますのでご理解を賜りたいと思います。

それから、地方債の残高の関係でございますが、これも先ほど申し上げましたように、繰越事業の関係がございまして、それがいつ確定するかということによって、その年度の区分のその時点時点の借入額が若干変動するということがありますので、あわせてご理解をよろ

しくをお願いします。

○議長（岡本 勇君） 10番、山田君。

○10番（山田 均君） ちょっと町長にお尋ねしておきたいんですが、24ページに商工振興費というのがありまして、営業資金の融資利子補給金というのは、当初34件が54件という事で20件増加したと言う事ですが、国のいわゆる今の麻生総理にしても、100年に一度の状況だということをよく言われるんですが、そういう景気の状況だということですので、今、担当課長の方からもありましたように、京都府もその本部を設置してやるんだというふうなことです。京丹波町としても、いわゆる町内にありますいろんな商店街も含めて、業者の状況はいろいろとは思いますが、やはりそういう訪問調査というの、やっぱり激励にもなるわけですので、こういう状況の中で、そしたら町はどうするかということはありませんけれども、やはり実態もちゃんとつかんで、激励もして、それを京都府と国も含めて制度をつくらうとしておるわけですので、商工会なんかとも協力しながら、そういうことへの助言をしたり、そういうことをもう一歩ちょっと踏み込んでいくということも必要じゃないか。

職員もこれ、300人近くおられますので、例えば分担して回ったら、5件回ったらそれだけで1,500件回れますので、そういうような町上げてそういうような調査や激励をするというようなことも、今のこの景気の状況の中で、大事ではないか。それが町民からすれば、町がほんまに我々のそういう思いも聞いてもらえるのだということもあろうと思うので、そういうようなひとつ考え方も、取り組みも必要ではないかと思うんですけども、その辺のちょっと町の見解を伺っておきます。

○議長（岡本 勇君） 松原町長。

○町長（松原茂樹君） 9月中旬以降、だれも余り想定しなかったような世界的な株価暴落、景気後退という状況になっているという事でございますし、その当時はよそのことかなという受けとめ方もされておった向きもあるわけですが、ここへきて、非常に、自動車業界を中心にして、減産に次ぐ減産ということで、もう500万台を切るという来年度の見通しでありますので、それに関連をするさまざまところで、实体经济が後退してくるという状況が出てくる。そこでどうするかということでもありますけれども、今、議員ご指摘のように、なかなかそれぞれの経営の中に手を入れてということは、非常に私はある反面難しいのではないかというふうに思います。

そういう中で、決して、経営状況がいいとは言い切れないところもあるんでしょうけれども、それを職員が聞きに行き、あからさまに自分のとこの内情を伝えられるかという、

私はそうではないのではないかと。やっぱり、門戸としていわゆる融資の金利補てん等々の部分については、いろんな形でお知らせをさせていただいているというふうなこともありますので、まずはご相談にみえられる、あるいはまたできれば融資を願いたいというところからでないかと、職員が一々ずっと回って聞き取れるものかという、私はそれは少し無理があるんじゃないかというふうに思っております。即座にそうした形の調査というのは考えてないわけですがけれども、先ほど担当課長が申しましたように、京都府と十分調整をとりながら、やっぱり現実的には、議員おっしゃるように、そうした厳しい状況にあるというのはそのとおりだろうというふうに思いますので、その辺を町としてどこまで支えることができるかということはあるわけですがけれども、できる限り、対応をしていくべきではないかというふうに考えております。

○議長（岡本 勇君） これをもって、質疑を終結いたします。

これより、討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） 討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより、議案第83号を採決いたします。

議案第83号 平成20年度町丹波町補正予算（第2号）、原案のとおり決することに賛成の方は挙手を願います。

（全員 挙手）

○議長（岡本 勇君）

挙手全員であります。

よって、議案第83号は、原案のとおり可決されました。

ここで、10時50分まで暫時休憩といたします。

休憩 午前 10時35分

再開 午前 10時50分

○議長（岡本 勇君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

《日程第15、議案第84号 平成20年度京丹波町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）》

○議長（岡本 勇君） 日程第15、議案第84号 平成20年度京丹波町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）を議題といたします。

これより、質疑を行います。

10番、山田君。

- 10番（山田 均君） 担当課にお尋ねをしていきたいと思うんですが、1点は質美診療所勘定の4ページなんですけど、使用料及び賃借料の、CATVの使用料の5,000円減額があるんですが、お聞きしますと、この農業情報の関係を解約するという話であったのですが、それはそういう事なのかということ。

ケーブルテレビは国の補助を受けて実施したわけですが、農業関係の予算を受けたということで、農業情報を放送するという事になってるんですけども、公共施設で農業情報を解約するという事になったら、一般町民もそういうことができるのかどうかということになろうと思うので、本来のケーブルテレビの補助を受けた関係から言うと、その農業情報というのを受けるといのは義務になってるんじゃないのかということをお尋ねしておきたいというのが1点目でございます。

それから、和知の診療所の関係で、3ページなんですけれども、診療収入の関係で、202万5,000円。その要因は何かということをお尋ねしておきたい。

それから、歯科診療の関係で、歳出の4ページ、節のところの賃金で、臨時雇用賃金のところで、145万5,000円の減になっているのですが、目のところの一般管理費の中を見ますと、一般管理事業が125万5,000円の減になっておるんです。賃金が直接減にはなってないんですけども、一般管理事業というのがこの臨時雇用とのかかわりがあると思うんですけども、一般管理事業で減になる要因というのは、賃金ということじゃなしに、どういうことで減になるのか。いわゆる差引という解釈をすれば、その減になる125万5,000円の事業の減の内容をお尋ねします。

- 議長（岡本 勇君） 下伊豆地域医療課長。

- 地域医療課長（下伊豆かおり君） まず、最初に、質美診療所勘定のCATVの使用料ですが、先日の常任委員会では農業情報と申し上げたんですけども、多チャンネルサービス用ホームターミナルの撤去による負担減ということで、基本使用料のみの契約とさせていただいております。このことに関しましては、合併時にある程度、整理をされた施設もあったように聞いておまして、そのような対応をさせていただきました。

次に、和知診療所勘定の歳入のその他の診療報酬収入の減額につきましては、今まで基本健診に医師を派遣しておりましたんですが、ことしから特定健診という制度に変わらして、その委託方法といたしまして、一括委託といいますか、医師の健診の部分もあわせて委託しなければならないという、その特定検診の基準に合わせる必要があったことから、和知診

療所からの医師の派遣ができなくなったものによるものでございます。そのほかにも、一部校医の担当区分の見直しですとか、そのあたりでの整理も含まれております。

最後に、歯科診療所の賃金の減額分につきましては、臨床研修医の受け入れをしておりますが、今年度、上半期の受け入れがなかったことから、その分を減額させていただいております。

一般管理費の中では、その他の需用費ですとか、そのあたりとの調整で、最終的に125万5,000円の減額となっております。

○議長（岡本 勇君） 10番、山田君。

○10番（山田 均君） ちょっと今のその他集めてというのがわかりにくかったんですが、集めたらそうだったという事なのでそう理解しました。

和知診療所の、今お尋ねしたその他診療報酬収入一部負担金収入の過年度分の5,000円減というのがあるんですが、これは診療収入の過年度分の5,000円というの、どういう要因なのか。その5,000円という事でございますので、本来ならそのときにもらっておけるぐらいの金額じゃないかと思うんですが、ちょっとその理由と減になります要因をお尋ねしておきます。

○議長（岡本 勇君） 下伊豆地域医療課長。

○地域医療課長（下伊豆かおり君） 一つだけ、歯科の先ほどの補正額ですが、光熱水費の20万円の増額とあわせまして、賃金と光熱費の20万円の増額を相殺して、125万5,000円となっております。

それから、和知診療所の一部負担金過年度分につきましては、当初5,000円を見込んでおりました。これは過年度分の未収金があったということで、本来ですと4,700いくらなんで、見込み過ぎでもあったわけですがけれども、この方が過年度分ということと、その後連絡がつかなくなったということで、今回やむなく不納欠損処分をさせていただいたところでございます。その分を減額とさせていただいております。

○議長（岡本 勇君） 10番、山田君。

○10番（山田 均君） 今の過年度分の5,000円の件なんですが、ちょっともう少し、不納欠損というのはわかったんですが、5,000円のいわゆる見込みが入らないということなんですが、不明ということですが5,000円というのが窓口でもらえなかったのか。一部負担ということですので、所在がわからないということなのか、町内の人でなかったということなのか、当然、本来、そのときに急患であるときちっともらうとか住所聞くとかいうこともその辺がきつと徹底できていなくて、相手がわからなくなったということなのか、

ちょっとその辺だけ、もう一度伺っておきます。

○議長（岡本 勇君） 下伊豆地域医療課長。

○地域医療課長（下伊豆かおり君） 説明が不十分で申しわけございません。

一部負担金ですので、一応、保険診療でさせていただいております。17年に和知の方に魚つりに来られてた方が、針が刺さったということで、休日に急患で受診されております。計算させていただいて、後日、そのときにも手持ち金が足りないからということで、後日納付書を送付させていただいておりましたが、その後も入金がなく、その後、居所不明という形で文書が届かなくなっております。

○議長（岡本 勇君） これをもって、質疑を終結いたします。

これより、討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） 討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより、議案第84号を採決いたします。

議案第84号 平成20年度京丹波町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）、原案のとおり決することに賛成の方は挙手を願います。

（全員 挙手）

○議長（岡本 勇君） 挙手全員であります。

よって、議案第84号は、原案のとおり可決されました。

《日程第16、議案第85号 平成20年度京丹波町老人保健特別会計補正予算（第1号）》

○議長（岡本 勇君） 日程第16、議案第85号 平成20年度京丹波町老人保健特別会計補正予算（第1号）を議題といたします。

これより、質疑を行います。

6番、東君。

○6番（東まさ子君） この会計につきましては、いろいろ提案説明も受けまして、立てかえ分を一般会計から繰り出ししたという事で2,560万6,000円、歳出ではなっているわけですが、基本的にこの会計というのは、診療見込みを立てて、それに基づくその財源というのは支払基金交付金、国あるいはまた府、町と、一定のルールに基づいて予算化するということで、今回、このたてかえ分だということではありますが、なぜこういうふうになってくるのか、事務的な分ですけど、お聞きをしておきます。

○議長（岡本 勇君） 伴田住民課長。

○住民課長（伴田邦雄君） これにつきましては、例えば支払基金交付金でありますのは、概算交付という形がとられておりました、翌年度精算という形になっております。国につきましても、同じように精算というのは翌年度にまたがるということと、それからさらに国におきましては、予算的な制約がございまして、金額がわかっていても予算がついてこないという部分がありまして、それを翌年度に精算すると、そういうふうなことになっております。以上でございます。

○議長（岡本 勇君） 6番、東君。

○6番（東まさ子君） 今の説明でわかったわけではありますが、例えばこのこういうふうになりますと、一般会計からの繰り出しで賄ってきたという、今回繰り入れになるわけではありますが、そういうお金というのは、やっぱり一般会計から繰り出さなくてはいけないのか、一部借り入れとか、そういうものでの対処というのはできないものなんですか。

○議長（岡本 勇君） 伴田住民課長。

○住民課長（伴田邦雄君） いろいろ方法はあるかと思います。例えば赤字のまま決算するというのもあるのではなからうかとは思っておりますが、現在はそういう形で対応しております。

以上です。

○議長（岡本 勇君） これをもって、質疑を終結いたします。

これより、討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） 討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより、議案第85号を採決いたします。

議案第85号 平成20年度京丹波町老人保健特別会計補正予算（第1号）、原案のとおり決することに賛成の方は挙手を願います。

（全員 挙手）

○議長（岡本 勇君） 挙手全員であります。

よって、議案第85号は、原案のとおり可決されました。

《日程第17、議案第86号 平成20年度京丹波町介護保険事業特別会計補正予算（第2号）》

○議長（岡本 勇君） 日程第17、議案第86号 平成20年度京丹波町介護保険事業特別会計補正予算（第2号）を議題といたします。

これより、質疑を行います。

6番、東君。

○6番（東まさ子君） 歳出の5ページであります。平成21年度からの認定ソフトのいうことで、パソコンの更新23万3,000円ということで、提案説明あったわけですが、この次年度からの介護保険事業について、そういう認定ソフトというのはどういうふうに変更となっているのか、お聞きをしておきたいと思っております。

○議長（岡本 勇君） 堂本保健福祉課長。

○保健福祉課長（堂本光浩君） 認定調査等事業で、一般備品ということで、介護認定に関するパソコンなりプリンターを購入させていただく件でございます。平成21年度から介護の認定の項目が変更となります。その関係が主ですけれども、国からの認定ソフトが変更となりまして、それによりまして現在、パソコンでいいますとウィンドウズ2000のパソコンを利用しておるんですけれども、XP以降できれば今のモデルということで指定がございまして、そちらの方の購入に充てさせていただくということでございます。

○議長（岡本 勇君） 6番、東君。

○6番（東まさ子君） 機器についてはあれなんですけれども、認定の仕方がこれまでと比べて変わるということで、これまででしたらいろいろと町の保険試算とか、そういう身近におられる方の意見が第一調査のところでそういうところで反映されたというふうになってると思うんですが、次からは何か一度こういうところで判定が出たら、変更がしにくいとか、住民にとって必要なサービスが受けにくくなるような、そういうふうにもいろいろ問題視されていると思うんですが、課長さんにはそこまで聞くつもりはありませんが、そういう意味で聞いたわけでありまして。

○議長（岡本 勇君） 答えは要らんですね。

10番、山田君。

○10番（山田 均君） 私も担当課長にお尋ねしたいんですが、歳出の5ページの保険給付費の中で、それぞれこのサービスの給付について、それぞれ利用の増という説明があったんですが、具体的に当町、例えば50件の計画が最終追加で80になったとかいうふうに当然なってると思うんですけれども、具体的に利用者の増ということですので、当初の予定の計画と増加は何件、合計何件になったということ、それぞれ居宅介護、地域密着型、福祉用具、住宅改修、介護サービス給付という事でお尋ねしておきたいと思うんですが。

○議長（岡本 勇君） 堂本保健福祉課長。

○保健福祉課長（堂本光浩君） 保険給付費の介護サービス諸費にかかりますそれぞれの利用量増に関してですけれども、まず、居宅介護サービス給付費で申しますと、主には通所リハビリテーションが平成19年度ですと83件、本年度につきましては99件、16件の月ですけれども利用増ということでございます。それから、同じく居宅介護サービス給付費の中で申しますと、短期入所の生活支援、これにつきましても、月1、170件でありましたところが、1、247件ということで、77件の増となっております。

それから、地域密着型介護サービス給付費、グループホームの関係ですけれども、これも月で申しますと14件から16件、2件の増ということでございます。

それから、居宅介護福祉用具購入費につきましてですけれども、これにつきましては、腰かけ便座とか特殊尿器等ですけれども、これは前年と比べましてほぼ変わってないわけでございますけれども、これまでの状況から申しますと、後半、償還払いということもございまして、後半に伸びるということも見込みまして、こういう形でさせていただいております。

居宅介護住宅改修費につきましても、同様の理由によりまして、上半期につきましてはほぼ変わっておりませんですけれども、後半に伸びを示しておるということで、増とさせていただいております。

それから、居宅介護サービス計画給付費につきましてですけれども、これも月400件から420件に、20件の増ということになっております。

めくっていただきまして、6ページですけれども、介護予防サービス等諸費ですけれども、まず1番目、介護予防サービス給付費ですけれども、これも先ほどの居宅介護と同様ですけれども、介護予防通所リハビリテーションが31件から35件、4件の増。それから、介護予防通所介護、これが65件から69件、これも4件の増でございます。それから、介護予防サービス計画給付費、これが131件から139件ということで、8件の伸びということでございます。

以上でございます。

○議長（岡本 勇君） これをもって、質疑を終結いたします。

これより、討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） 討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより、議案第86号を採決いたします。

議案第86号 平成20年度京丹波町介護保険事業特別会計補正予算（第2号）、原案のとおり決することに賛成の方は挙手を願います。

（全員 挙手）

○議長（岡本 勇君） 挙手全員であります。

よって、議案第86号は、原案のとおり可決されました。

《日程第18、議案第87号 平成20年度京丹波町水道事業特別会計補正予算（第3号）》

○議長（岡本 勇君） 日程第18、議案第87号 平成20年度京丹波町水道事業特別会計補正予算（第3号）を議題といたします。

これより、質疑を行います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） これをもって、質疑を終結いたします。

討論を省略します。

これより、議案第87号を採決いたします。

議案第87号 平成20年度京丹波町水道事業特別会計補正予算（第3号）、原案のとおり決することに賛成の方は挙手を願います。

（全員 挙手）

○議長（岡本 勇君） 挙手全員であります。

よって、議案第87号は、原案のとおり可決されました。

《日程第19、議案第88号 平成20年度京丹波町町営バス運行事業特別会計補正予算（第2号）》

○議長（岡本 勇君） 日程第19、議案第88号 平成20年度京丹波町町営バス運行事業特別会計補正予算（第2号）を議題といたします。

これより、質疑を行います。

2番、坂本君。

○2番（坂本美智代君） 補正の関係ではないんですけれども、先ほど町長から報告がありました暮れのバスの運行の関係です。大変そういった暮れに買物をするため、住民の方からそういった要望を聞いておりましたし、大変うれしいことやと思うんですけれども、通常の間帯を運行されるのか、それとも、通常でしたら朝早い便もありますよね。それよりも、また、本数的には、便数的には変わらなくても、質美でしたら、朝出たらお昼まで、2時間ぐ

らいはちょっと桧山で時間をつぶさなあかんということがあるので、もし本数を変わないのであれば、時間的には遅くても、その間を1便ふやしてもらおうとか、そういった時刻の運行を少し検討していただけたら、大変、暮れの忙しいときなどで、なかなか出て、2時間も3時間もそっちで過ごすというよりは、早いこと買い物を済ませて帰って、家の用事をしたという方が多分あると思われまますので、その辺の運行の時刻のことも検討していただけたら大変うれしく思いますので、その辺をちょっとお願いいたします。

○議長（岡本 勇君） 松原町長。

○町長（松原茂樹君） 先ほども報告をさせていただいたわけですが、非常に休みの日にちが多いということで、29、30、平日どおり運行させていただきたいというふうに考えております。

少し時間はあるわけですが、なかなかダイヤをさわりますと、これまた思うとったのに来ないとか、いろいろまたトラブルもあろうかと思いますので、現状は現行ダイヤどおり運行させていただくということで、ご理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（岡本 勇君） 10番、山田君。

○10番（山田 均君） ちょっと私もお尋ねをさせていただきますが、行政報告でありましたように、さっそく2日間走らせるということで、非常に住民にとって、うれしいものがありますし、その取り組みについては評価をするものでございますが、今回、予算になっておりますハウスの購入の休憩所の関係なんですけれども、これ、寒くなりますので、できるだけ早い設置というのが求められておったんですが、年内、余り期間もないんですが、今の考え方としてはいつの時点で設置ができるのかということをお尋ねしておきたいのが1点。

それから、もう1点は、今回年末走らそうということで決断をしていただいたのですが、来年度に向けて、いろいろこのバスの乗客の問題、乗らないという問題もいろいろされておるんですけれども、例えばスクールバスの問題はこれはきちっとしなければならないわけですが、一般乗客の場合には、例えばコースを決めて、例えば瑞穂でしたら瑞穂を瑞穂コース、和知コース、丹波コース、その中でもコースがありますけれども、毎日ということになしに、週に例えばこのコースを3回走ると、このコースはまたこの間、6日であれば3、3を走るとか、そういうような一つのこの考え方も、やっぱりやっていたら、住民も走る週に利用するのやと、買い物するんやと、病院行くんやというような、こういうことも住民の協力というか、そういうことも含めて、一つの運営も考えていくことも一つやないかと。そのためには、利用者なんかの声やら意見聞きながらやらんなんと思うんですけれども、やっぱりそういうような工夫といいますか、そういうところももう少し考えていって、

そしてバスを乗ってもらいやすい時間帯に走らすとかそういうことの研究も大事じゃないかと思うんですけども、その辺、全国的なそのようなことやってはるところもありますし、一つのコースをずっと走っておる巡回バスをやっておるところもあるわけでございますけれども、いろんなちょっと考え方を考えるということも、来年に向けて必要ではないかと思うんですけども、その辺のちょっと考え方、お尋ねしておきたいと思います。

○議長（岡本 勇君） 岩崎企画情報課長。

○企画情報課長（岩崎弘一君） 1点目の今回の備品の関係でございますけれども、今回、ご議決いただければすぐに発注の段取りをさせていただきたいと思います。

この部分については、もう製品として設置をするという、そういう形の部分を想定をしておりますので、予算をご議決していただいた後、なるべく早く設置をしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それと、コースの部分については、確かにいろんな部分でございますし、スクールとまたその空き時間での運行ということで、現在も進めさせていただいておりますし、バスについての運行の方法仕方にいろいろとご意見等、またご要望等もいただいております。現行の職員体制でありますとか、バスの台数そういういろいろな要素はあるわけでございますし、また、財政的な部分も大きな部分でございます。そういう部分を加味しながら、今後も常にそういうご要望の内容については、検討も加えながらよりよい方向でということで、さらにまた検討も加えていきたいというふうにも思っております。

○議長（岡本 勇君） これをもって、質疑を終結いたします。

これより、討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） 討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより、議案第88号を採決いたします。

議案第88号 平成20年度京丹波町町営バス運行事業特別会計補正予算（第2号）、原案のとおり決することに賛成の方は挙手を願います。

（全員 挙手）

○議長（岡本 勇君） 挙手全員であります。

よって、議案第88号は原案のとおり可決されました。

《日程第3、諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦について》

○議長（岡本 勇君） 日程第20、請願第2号 耐震改修制度の創設を求める請願書を議題といたします。

付託委員会における審査の経過と結果について、委員長に報告を求めます。

畠中産業建設常任委員長。

○産業建設常任委員長（畠中 勉君） 12月8日に提出されました耐震改修助成制度の創設を求める請願書につきましては、全京都建設労働組合般井支部より提出があり、12月16日の建設常任委員会で審査を行いました。

地震災害については、阪神淡路大震災を初め、中国の四川省の大災害等、世界的な地震による災害発生が多発している状況であること。さらに今後においても、大地震の発生が予測されている状況にあることから、地震災害に対し備える対策が、国や地方自治体で取り組まれております。

京都においても、本年度、耐震促進計画を策定することになっております。また、京丹波町におきましても、本年度内に耐震診断促進計画が完了するという状況になっており、災害に備える取り組みが進んでおるところでございます。

請願を受けました4項目につきまして、審査をいたしました。さらに審査が必要な部分があるということから、趣旨採択となったところでございます。

以上、非常に簡単ですが、報告とさせていただきます。

○議長（岡本 勇君） 以上、報告のとおりであります。

これより、委員長報告に対する質疑を行います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） これをもって、質疑を終結いたします。

討論を省略します。

これより、請願第2号を採決いたします。

この請願に対する委員長の報告は趣旨採択です。

この請願は、委員長報告のとおり決することに賛成の方は挙手を願います。

（全員 挙手）

○議長（岡本 勇君） 挙手全員であります。

よって、請願第2号は、委員長報告のとおり趣旨採択することに決定いたしました。

《日程第21、農業委員会委員の推薦について》

○議長（岡本 勇君） 日程第21、農業委員会委員の推薦についてを議題といたします。

お諮りいたします。

議会推薦の農業委員会委員は3人といたしたいと思いますが、これにご異議はありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(岡本 勇君) ご異議なしと認めます。

よって、議会推薦の農業委員会委員は、3人と決定しました。

お諮りします。

ただいま3人と決定しました農業委員会委員に、大崎栄美子さん、神谷みつ子さん、山本眞寿美さん、以上の方を前回に引き続き推薦したいと思います。ご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(岡本 勇君) ご異議なしと認めます。

よって、議会推薦の農業委員会委員に、大崎栄美子さん、神谷みつ子さん、山本眞寿美さん、以上の方を推薦することに決定しました。

《日程第22、京丹波町議会議員政治倫理に関する調査について》

○議長(岡本 勇君) 日程第22、京丹波町議会議員政治倫理に関する調査についてを議題といたします。

本件について、委員長の報告を求めます。

山田政治倫理検討特別委員会委員長。

○政治倫理検討特別委員会委員長(山田 均君) ただいま議題になっております政治倫理検討特別委員会の報告を申し上げます。

お手元に議案を配付いたしておりますので、それを朗読をして、報告にかえたいと思います。

平成20年12月19日 京丹波町議会議長 岡本 勇 様。政治倫理検討特別委員会委員長 山田 均。

委員会調査報告書

本委員会に付託された調査事件について、調査の結果を別紙のとおり、会議規則第77条の規定により報告をいたします。

本文を読んで提案にかえたいと思います。

政治倫理検討特別委員会報告。

京丹波町で起きた幹部職員と元副町長の収賄事件は、町史に残る重大事件として全国に報

道され、合併間もない京丹波町に大きな傷跡と汚名を残し、町民にも大きな損害を与える事件であった。議会としては、収賄事件調査特別委員会を設置して、事件の解明に取り組み、限られた権限の中での調査であり、収賄事件の起こった原因など深い分析と解明はできなかったが、事件解明の取り組みを踏まえて、政治倫理条例の制定が必要との意見の一致に至った。収賄事件調査特別委員会の報告とあわせて、政治倫理検討特別委員会を設置し、条例制定に向けて取り組んできた。

本委員会は、平成20年1月23日に第1回委員会を開会以降、9月までに8回の委員会を開催し、先進事例や近隣市町の条例などを取り寄せ、比較検討を行いながら、議会として議員の政治倫理の向上を図るための条例案を作成するため、議論を重ねてきた。また、本委員会として、全員協議会にも条例案を提示、意見を求めてきた。

こうした取り組みを踏まえて、平成20年9月26日の本会議で、京丹波町議会議員政治倫理条例を全会一致で制定した。

条例の施行に当たり、施行規則の制定が必要であることから、本委員会として引き続き、検討と議論を重ね、ここに施行規則案を添付し、本委員会としての調査を終え、今後は議員みずからの自己研さんはもちろん、条例の趣旨をしっかりと踏まえて、委員活動が一層活発になることを願い、本委員会としての調査報告とする。

なお、本委員会の開催と協議内容については、以下のとおりである。

協議内容と開会日時、内容という順序で報告したいと思います。

平成20年1月23日、第1回政治倫理検討特別委員会、条例案のまとめ方について検討を行いました。

同じく20年2月15日、第2回の政治倫理特別委員会を開催し、条例案の組み立てについての検討。

平成20年4月28日、第3回政治倫理検討特別委員会、条例案の委員会としてのたたき台の検討。

平成20年5月15日、第4回政治倫理検討特別委員会、議員の親族の適用範囲についての検討。

平成20年5月30日、第5回政治倫理特別委員会、政治倫理審査会の組織的位置づけの検討。

平成20年6月13日、第6回政治倫理検討特別委員会、政治倫理審査会の組織的位置づけの検討。また、審査請求権の要件の検討。

平成20年6月20日。第7回政治倫理検討特別委員会。条例案の文言整理を行いました。

平成20年9月22日、第8回政治倫理検討特別委員会 条例案の文言整理、施行規則の検討。

平成20年9月26日、京丹波町議会議員政治倫理条例の制定を、この時に行いました。

平成20年11月4日、第9回政治倫理条例検討特別委員会施行規則案の検討。

平成20年12月11日、第10回政治倫理検討特別委員会、委員会報告についての検討を行いました。

以上でございます。

なお、本委員会の委員は、記載のとおりでございます。

先ほども申し上げましたように、施行規則案につきましては、別表ということで添付しておりますので、後日お目とおしをいただきたいというように思います。

以上、本委員会としての調査報告といたします。

○議長（岡本 勇君） 以上、報告のとおりであります。

ただいまの委員長報告については、質疑、討論を省略いたします。

これをもって、政治倫理検討特別委員会における調査を終了することにご異議はありますか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） ご異議なしと認めます。

政治倫理検討特別委員会における調査は、終了いたしました。

《日程第23、発委第12号 森林林業振興対策の評価に関する意見書》

○議長（岡本 勇君） 日程第23、発委第12号 森林林業振興対策の評価に関する意見書を議題といたします。

議案の朗読を事務局にいたさせます。

長澤事務局長。

○議会事務局長（長澤 誠君） それでは失礼いたします。

発委第12号 平成20年12月19日。京丹波議会議長 岡本 勇 様。

提出者 産業建設常任委員会委員長 畠中 勉。

森林林業振興対策の強化に関する意見書

上記の議案を、別紙のとおり、地方自治法第109条第7項及び会議規則第14条第3項の規定により提出します。

提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、農林水産大臣、経済産業大臣。

森林林業振興対策の強化に関する意見書

我が国の林業は、国産材需要にかすかな回復の兆しがあるものの、高齢化による担い手の減少や木材価格の低迷などにより、生産活動が停滞するという厳しい状況下にある。

これに伴い、間伐等の施業や伐採後の植林が行われない森林が増加するなど、森林機能が著しく低下している。

また、国は第二次世界大戦後、国策として造林を奨励する一方、外国産材の輸入自由化により、国産材価が下落し、以後、48年間、慢性的な林業不振が続いている。

町の面積のうち、森林が82%を占める我が町においても同様であり、高齢化が進み、森林保全が困難な状況であり、水源の涵養や地球温暖化など環境にも多大な影響を与えているのに加え、国産材需要の低下などによる木材価格の低迷により、森林林業が抱える構造的な問題に直面している。

したがって、産業としての林業を復活させ、林業の健全な発展と林産物の供給等、本来、森林の持つ多面的機能を十分発揮させることを目的として、森林林業基本法第26条に基づく輸入制限や、林業、木材産業の再生に向けた強力な施策を講じられるよう、強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成20年12月19日

京都府京丹波町議会議長 岡本 勇

以上でございます。

○議長（岡本 勇君） 本件について、提出者の説明を求めます。

畠中産業建設常任委員長。

○産業建設常任委員長（畠中 勉君） それでは、本意見書に対する産業建設常任委員会の取り組みを申しまして、報告とさせていただきます。本要望につきましては、生産森林組合協議会というものがございまして、これは54団体のうち45団体の生森が加入しておりますのでございますが、その中の協議会長より、6月の16日に要望が出されておりました。逐次検討を重ねてまいりました。

そういった審査を重ねてまいった中で、特にこの林業につきましての取り組みにつつまし

て、国や府や上部団体への要望が出ておりまして、それらを検討、審査してまいりまして、今回の意見書とすることで、それぞれのところへ意見書を出していくということで、産業建設常任委員会委員全員の賛同を得たところでございます。

以上、簡単ではございますが、報告とさせていただきます、皆様のご賛同を得ますように、よろしくお願いいたします。

○議長（岡本 勇君） 以上、説明のとおりであります。

これより、質疑を行います。

10番、山田君。

○10番（山田 均君） 質疑というのではないんですが、私もこの意見書（案）については常任委任会でございますので、特別内身にどうこう言うのではないんですけども、ちょっとお尋ねするのやけど、普通この森林林業振興対策の評価に関する意見書、本会議に提案は、これ案として出していただいて、決議して本文として出すと、これが普通じゃないかと思うんですが、ちょっとこの案がないんやけど、どうかなという、ちょっとお尋ねしてみたいんですけど。

○議長（岡本 勇君） 確認をして、以後、気をつけさせますので、今回ちょっと、その辺だけは確認をして、案にするかということだけちょっと確認だけしときますので。

○10番（山田 均君） 何で提案やという、それがルールやと思うんやけど、どうやらね。

○議長（岡本 勇君） 案ということが、字が抜けておったというところでひとつご理解いただくので、案でございますので、ひとつよろしくお願いたしたいと思います。

これをもって、質疑を終結いたします。

討論を省略いたします。

これより、発委第12号を採決いたします。

発委第12号 森林林業振興対策の強化に関する意見書（案）、原案のとおり決することに賛成の方は挙手を願います。

（全員 挙手）

○議長（岡本 勇君） 挙手全員であります。

よって、発委第12号は原案のとおり可決されました。

《日程第24、発委第13号 議員定数等検討特別委員会設置に関する決議》

○議長（岡本 勇君） 日程第24、発委第13号 議員定数等検討特別委員会設置に関する決議を議題といたします。

本件について、提出者より説明を求めます。

小田君。

○7番（小田耕治君） それでは、発委第13号 議員定数等検討特別委員会設置に関する決議について、提案理由の説明を行います。

丹波町、瑞穂町、和知町が合併し、議員定数18名で発足した京丹波町議会も3年が経過しました。合併直後のさまざまな課題に取り組んできましたが、2年目に2名の議員の欠員が生じ、現在、16名の議員での議会運営となっています。

今日までの議会運営、議員活動を評価し、求められている議会の活性化や住民の意思を行政に反映するための議員定数等について調査検討するため、議員定数等検討特別委員会を議長を除く15名の議員で、議員全員で設置するものであります。

それでは、議案書を読み上げ、提案とします。

発委第13号 平成20年12月19日。京丹波町議会議長 岡本 勇 様。

提出者 議会運営委員長 小田 耕治。

議員定数等検討特別委員会設置に関する決議

上記の議案を別紙のとおり、地方自治法第109条の2第5項、及び会議規則第14条第3項の規定により提出します。

提案の理由

議会の活性化や住民の意思を反映するための議員定数等について調査検討するため。

議員定数等検討特別委員会設置に関する決議（案）

次のとおり、議員定数等検討特別委員会を設置するものとする。

記

1. 名 称 議員定数等検討特別委員会
2. 設置の根拠 地方自治法第110条及び京丹波町委員会条例第6条
3. 目 的 議会の活性化や住民の意思を反映するための議員定数等について調査検討する。
4. 委員の定数 15人
5. 期 限 調査の終了するまで。

以上でございます。議員全員の皆様のご賛同をお願いいたします。

○議長（岡本 勇君） 議会運営委員会から提出されました議員定数等検討特別委員会設置に

関する決議（案）のとおり、決定することにご異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） ご異議なしと認めます。

よって、議会運営委員会から提出されました議員定数等検討特別委員会設置に関する決議（案）は、可決されました。

ここで、暫時休憩といたします。

休憩 午前 11時44分

再開 午前 11時45分

○議長（岡本 勇君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

お諮りします。

ただいま設置されました議員定数等検討特別委員会の委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、お手元に配付の議員定数等検討特別委員会委員選任名簿のとおり指名したいと思います。

ご異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） ご異議なしと認めます。

よって、議員定数等検討特別委員会の委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、お手元に配付の議員定数等検討特別委員会委員選任名簿のとおり、選任することに決定しました。

暫時休憩します。

休憩中に、第一会議室におきまして、ただいま設置されました特別委員会を開催していただき、正副委員長等々の互選をお願いをいたします。

休憩 午前 11時45分

再開 午前 11時55分

○議長（岡本 勇君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

休憩中、議員定数等検討特別委員会が開催され、正副委員長が選任されましたので、報告いたします。

委員長は小田耕治君。副委員長は今西孝司君。

以上のとおりであります。よろしくお願ひいたします。

《日程第25、閉会中の継続審査の件》

○議長（岡本 勇君） 日程第25、閉会中の継続審査の件を議題といたします。

福祉厚生常任委員長から、委員会において審査中の事件について、会議規則第75条の規定により、お手元に配付いたしました申出書のとおり、閉会中の継続審査の申し出があります。

お諮りします。

福祉厚生常任委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることにご異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） ご異議なしと認めます。

よって、福祉厚生常任委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることに決定しました。

《日程第26、閉会中の継続審査の件》

○議長（岡本 勇君） 日程第26、閉会中の継続調査の件を議題といたします。

議会運営委員会、総務文教常任委員会、産業建設常任委員会、福祉厚生常任委員会の各委員長から、所管事務のうち、会議規則第75条の規定により、お手元に配付いたしましたとおり、閉会中の継続調査の申し出があります。

お諮りします。

各委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（岡本 勇君） ご異議なしと認めます。

よって、各委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

以上で、本日の議事日程並びに本会議に付議された事件は、すべて議了しました。

よって、本日の会議を閉じ、平成20年第4回京丹波町議会定例会はこれをもって閉会いたします。

閉会 午前11時56分